



「直接民主制が世界を変える～スイス・イタリア・スペイン・韓国・台湾の事例」

問題提起者：外山 麻貴さん（ピープルパワーTV）

日時：2019年5月12日（日）13:30～16:30

会場：新宿会議室倶楽部 ルーム A

参加者：15名

問題提起要旨：

皆さん、民主主義ってなんだと思いますか？

4年に1度、自分たちの代理人を決める選挙をする。私たちの政治参加はそれだけでいいのでしょうか。

世界では、直接民主制（Direct Democracy）が少しずつ広まってきています。スペインのマドリードでは、予算1億ユーロの使い道を、市民の住民投票で決定します。

また、誰でも参加できるデジタルプラットフォームがあり、そこで住民の1%の署名が集まれば、住民投票が発議でき、住民投票によって可決されれば条例が制定されます。

そこに住んでいる、街を愛する住民が主役なのです。

地域のためにいいことしよう。自分たちのことは自分たちで決める。政治家さんに任せるだけでなく、自分たちで生活のため、地域のため、地球のために考え、行動すること、これが直接民主制です。

自分が提案したことが条例になったり、投票した結果に税金が使われるようになったら、政治が「他人事」から「自分事」になることでしょう。

議員さんに全て任せるのではなく、自分たちも市政の決定事項に参加できるのです。

間接民主制を否定するものではなく、相互補完して、政治への住民の主体的参加を促すもの、それが直接民主制です。

世界中で広がっている直接民主制の動きを、イタリア、スイス、スペイン、台湾、韓国などの事例を具体的に紹介しながら、これからの市民運動のあり方を探ります。